

早生・良食味の水稲新品種「あきげしき」について

滝田 正¹⁾・吉岡秀樹・川口 満・永吉嘉文・荒砂英人²⁾・日高秀光³⁾・愛甲一郎⁴⁾・菌田豊和³⁾
(宮崎県総合農業試験場・¹⁾ 東北農業試験場・²⁾ 宮崎県東臼杵北部農業改良普及センター・
³⁾ 宮崎県農政水産部・⁴⁾ 宮崎県中部農業改良普及センター)Tadashi TAKITA, Hideki YOSHIOKA, Mitsuru KAWAGUCHI, Yoshifumi NAGAYOSHI, Hideto ARASUNA,
Hidemitsu HIDAKA, Ichirou AIKOU and Toyokazu SONODA: A New Rice Cultivar "Akigeshiki"

水稲新品種「あきげしき」は、1997年に熊本県において奨励品種に採用された。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し、普及の参考に供試したい。本品種の育成に関し、ご協力いただいた関係機関各位に深く謝意を表す。

1. 来歴および育成経過

本品種は、早～中生、良食味、安定多収性を目標に、九系919(西海199号)／「ヒノヒカリ」の組み合わせから育成された。1994年F₃より「南海131号」の系統名を付し、関係各県に配布して地方適応性を検討した。1997年8月に「水稲農林353号」と農林登録、「あきげしき」と命名された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性: 「日本晴」と比較すると、稈長は同程度、穂長はやや短く、穂数はやや少なく、草型は中間型である。止葉はやや長く直立し、草姿は極良である。葉色は緑で成熟期にやや赤身を呈する。芒はなく、ふ先色と顔色は黄白である。着粒密度はやや密で、脱粒性は難である。

2) 生態的特性: 出穂期と成熟期は、「日本晴」と同程度で、早生の晩に属する。稈はやや剛で、耐倒伏性は強である。収量は「ミネアサヒ」よりやや多収で、「日本晴」とほぼ同程度であるが、九州地域ではやや多収になる傾向がある。

いもち病抵抗性遺伝子型はPi-a, iをもつと推定され、圃場抵抗性は、葉いもち、穂いもちともやや弱である。白葉枯病の圃場抵抗性は中、縞葉枯病に罹病性である。

3) 品質・食味特性: 梗種で、玄米の粒形は中、粒大はやや大、千粒重は「日本晴」よりやや重い。外観品質は乳白がわずかに認められるが、腹白が少なく「日本晴」と同等の中の中である。食味は「日本晴」より明らかに優れ、「ヒノヒカリ」と同程度の上の中である。

3. 奨励品種採用理由

熊本県の阿蘇および矢部を中心とする高冷地域では、早生の早の熟期の「コシヒカリ」と「ミネアサヒ」で作付け面積のほぼ9割を占めている。収穫時期の集中の結果、共同乾燥施設の競合問題等が発生し、その調整のため、特に「ミネアサヒ」については刈遅れによる品質低下が問題となっている。「あきげしき」は「日本晴」と同熟期の早生の晩に属し、多収、良食味であるので、「日本晴」の全部とその他の一部に替わっての普及が期待される。

4. 栽培上の注意

1) 耐倒伏性は強であるが、いもち病にやや弱いので、多肥栽培を避け、適期防除を行う。

2) やや大粒で、粒着がやや密であり、初数過剰の場合、充実不足や乳白粒の発生により品質が低下しやすいので、多肥栽培を避け、穂肥施用が早くならないよう注意する。

第1表 「あきげしき」の特性概要

品種名	あきげしき	日本晴	ミネアサヒ
早晚性	早生の晩	早生の晩	早生の早
草型	中間	偏穂数	偏穂数
出穂期(月日)	8.17	8.15	8.12
成熟期(月日)	9.18	9.15	9.11
稈長(cm)	75	77	77
穂長(cm)	20.2	21.0	20.1
穂数(本/m ²)	361	363	398
芒の多少・長短	無	稀短	稀短
ふ先色	黄白	黄白	黄白
ふ色	黄白	黄白	黄白
脱粒性	難	難	難
耐倒伏性	強	やや弱	やや強
葉いもち	やや弱	中	中
耐病性	穂いもち やや弱	中	中
	白葉枯病	中	中
	縞葉枯病	罹病性	罹病性
玄米重(kg/a)	50.5	51.7	49.3
同上標準比(%)	98	100	95
玄米千粒重(g)	24.2	23.5	21.6
玄米品質	中中	中中	上中
食味	上中	中上	上中

注) 育成地における1994～96年の標肥試験成績